

平成17年度舟入高等学校SELHi研究開発中間報告会 研究授業指導案

○教 諭 西 巖弘
教 諭 横山 直子

1. 授業名 『コミュニケーション』
2. 期 日 10月28日(金)
3. 時 間 4 限
4. 場 所 東棟2階 201号教室
5. 対 象 3年10組 41名(普通科・国際コミュニケーションコース)
6. 内 容 トーキング・マッチ
7. 教 材 『Debating the Issues』(MacMillan Languagehouse)
8. 背 景

(1) 教材観

「トーキングマッチ」は、英語で議論する技能の向上をねらって、ディベートよりもインフォーマルな状況で意見を戦わせる訓練である。グループごとに討論者と評価者(ジャッジ)を何度も交代で経験できるので、スピーキング、リスニング、論理的思考力を鍛えることができると考えられる。

(2) 生徒観

生徒は、今年度の初めから本授業で毎回1分間と2分間のモノログ練習を行ってきた。その結果現在、身近な話題と賛否両論のある話題という発話上の負荷が異なる2種類の話題のどちらにおいても平均で1分間に70語程度のスピーキングをしている。

(3) 指導観

トーキングマッチで勝つためには、相手の意見を理解した上で、効果的な論拠を速く正しく発言しなくてはならない。この点の向上のために、評価者(ジャッジ)の経験を利用して各自の改善点に気づかせつつ、効果的なコミュニケーションの取り方について考えさせたい。

9. 学習指導計画

時	学習内容・学習活動
1～5	ジャッジの仕方とトーキングマッチ練習
6～10	ディベートの実践
11～14(本時)	トーキングマッチのまとめ

10. 本時案

(1) ねらい

- ① より説得力のある意見を述べることができるようになる。
- ② より素早く意見を述べるようになる。
- ③ より正確に評価(ジャッジ)ができるようになる。

(2) 準備物

- ・トーキングマッチ用カセット
- ・ワードカウンター
- ・ジャッジシート

(3) 学習過程

流れ	時間	活動内容	指導(○)と評価(◎)の留意点
導入	10分	•本時の予定 •1分間モノログ •2分間モノログ	○トーキングマッチの方法と留意点について再度確認する。 ◎モノログ中は机間巡視し、形成的評価を行う。 ◎流暢さを記録用紙に記入させる。
展開	35分	•トーキングマッチ ①ブレインストーミング ②トーキングマッチ(Inter-group) ③トーキングマッチ(Intra-group)	○本時は、5つのスタジアムを設けて、団体戦を行う。普段よりformalityが上がる中で、討論者、評価者ともこれまでの学習成果が十分に生かせるよう配慮する。 ◎取り組みの姿勢を観察評価する。 ◎ジャッジシートを回収して評価する。
まとめ	5分	•5分間ライティング	○本時は、トーキングマッチのテーマについて書かせる。ただし、進行状況によってはhomeworkとする。 ◎ライティングの内容を評価する。